



## 『未来を築くための組織運営』

総務委員会 委員長 大根田 紫織

一般社団法人滝川青年会議所は66年という長い歴史の中で、常に「明るい豊かな社会の実現」を目指して運動を展開してきました。私たちは、先輩諸兄姉の歴年の活動に敬意を表し、これからも地域に真に信頼される団体を目指し、運動を推進していく必要があります。現在、地域社会は、少子高齢化や人口減少などの課題を抱えており、滝川青年会議所もメンバーの減少や経験年数の浅いメンバーが多数を占めるなど、組織運営上の課題に直面しながらも、運動を継続しています。

このような状況下において、総務委員会としては、組織の根幹を守り、厳正かつ効率的な組織運営を行うことで、メンバー全員が活動に専念することができる環境を整えるとともに、滝川青年会議所の運動の魅力を広報することで、持続可能な組織の実現を目指します。まず、総会や理事会等の会議が適正かつ効率的に進行するよう心がけます。進行・タイムスケジュールの管理を徹底することで、メリハリのある議論が行われる環境を整えます。次に、メンバー一人ひとりが運営に参加しているという実感を持てるような組織運営を心がけます。各委員会の活動をはじめ、様々な活動にメンバー全員が参加できるよう、全員の活動への一歩を後押しする組織風土を醸成します。そして、地域の幅広い世代の方に滝川青年会議所の運動を知っていただき、より大きな運動を行うための広報活動を行います。具体的には、様々な世代にPRをしていくために、ホームページとSNSを随時更新し、新聞等も活用して、活動状況や市民向けのイベントの予定を広報します。

私自身、入会から間もなく、青年会議所について、十分に理解できていないかもしれませんが、青年会議所初心者であるからこそ、組織運営の基本である厳正かつ適正な運営を心掛けたいと考えております。そのような組織運営が、メンバーの活動の活性化や明るい豊かな社会の実現につながることを信じて、「一歩をつなぐ」ことを目標に、一年間、組織運営に邁進してまいります。



## 『私を守る。あなたを守る』

まちづくり委員会 委員長 加賀 拓馬

私たち滝川青年会議所は、これまでに先輩諸兄姉が築き上げてこられた伝統や誇りに敬意を表し、駆け出して間もないメンバーが中心となりますが、柔軟な発想と情熱をもって運動を行ってまいります。時代が移り変わっていく中、『明るい豊かな社会』と『市民の笑顔あふれるまちづくり』を未来に紡いでいくにあたって、根底となるのは地域の安心安全であり、近年リスクが高まりつつある地震や豪雨による災害被害の問題に向きあっていく必要があると考えております。

まずは、防災や被災時における安全確立に役立つ情報を市民の皆様提供するために、行政・各関係機関と連携し、防災・被災時の準備状況や情報共有の体制・認識の統一状況について確認を行なった上で被災時のリスクの低減対策の協議をし、市民向けの「防災・被災時の基本的行動マニュアル」の策定とその周知活動を行うことで、防災に対する地域全体での意識向上を図ってまいります。そして、市民全体として被災時の速やかな安全行動がとれるようにするために、滝川市内にある町内会に参画していただき、過去の事例や、実際に行った支援活動等を再認識した上で、「求めていること・して欲しい支援」などの意見を集約し、今後の防災対策の改善・見直しをする判断材料として行政・各関係機関に情報共有を行い、防災・被災時の行動マニュアルを SNS や広報誌等を活用することで、市民の皆様へ地域の防災体制や策定したマニュアルへの理解をいただきます。さらに「何を知っておくべきか」「どのように行動すべきか」を模索し、私たち滝川青年会議所がパイプ役となり、行政・各関係機関と市民の皆様との間に温度差が生じないよう努め、平時・有事を問わず共通の認識のもと安全確保が行えるようにいたします。

市内外で行われている各種イベントやボランティア活動の継続も大切なことです。それらは平穏な安心安全の日々があってこそ成り立つものです。「行政と市民をつなぐ滝川青年会議所」として、より地域社会に必要な組織となるべく百折不撓の精神と『一歩をつなぎ、未来を築く』を胸に、この一年を共に全力で邁進してまいります。



## 『友情で紡ぐ未来への架け橋』

名護委員会 委員長 齊藤 大輝

滝川名護児童交歓事業は、先輩諸兄姉が長年にわたり築き上げてこられた伝統ある取り組みであり、2025年に節目となる50回を迎えました。まだ青年会議所メンバーとして運動をしていくことを心に決めてから間もない時期に私が初めて参加したのも、本事業でございました。その節目の記念式典に参加し、これまでの歩みと、先達から受け継がれてきた情熱に触れ、大きな感銘を受けました。子どもたちが大きく成長できるこの事業を私たちが責任をもって継続し、さらに次の世代へと繋げていかなければならないと強く感じております。

本年度の名護児童滝川受け入れでは、地域を超えた児童交流を通じて友情を育む機会を提供するとともに、「おもてなしの心」と「感謝の気持ち」を学ぶ機会を創出いたします。名護派遣児童として名護で温かく迎え入れていただいた児童が、今回は受け入れ側として名護児童を迎え入れ、おもてなしの心で返す立場となることで、互いの助け合いや思いやりの心を育み、また名護の児童が北海道における厳しい冬の寒さを体感し、雪国ならではの生活を経験する中で、滝川児童との友情を深めます。受け入れ家庭である、つつじ会の皆様のご協力を賜り、名護青年会議所との密な連携のもと、安全で円滑な受け入れ体制を構築し、双方の児童にとって一生の思い出となる事業を実現いたします。続いて滝川児童名護派遣では、事前研修を通じて礼儀や団体行動における規律、協調性を学び、また郷土愛を育んでもらうきっかけとするために自身の住んでいる地域のことについてさらに知識を深める機会を設け、たきかわを代表する意識をもって名護派遣に臨みます。北海道とは異なる文化・風習を肌で感じ理解を深め、お世話になる名護の受け入れ家庭での温かさに触れ、地域体験を通じて家族への感謝や名護児童との友情を育み、児童一人ひとりの大きな成長に繋げてまいります。さらに、名護派遣報告会では、児童が経験を振り返り、派遣で得た学びを仲間と共にまとめ上げ発表することで、支えてくださった家族や携わっていただいた方々へ児童たちの一回り、二回りと成長した姿を見ていただき感謝を伝える機会といたします。また派遣児童増加を目指すために、SNSの活用や行政との連携、各団体・企業へのご協力も仰ぎながら、本事業を広く周知し、さらに次の世代へ繋いでまいります。

先達から脈々と受け継がれてきた滝川名護児童交歓事業を通じて、地域を超えた友情を育み、未来を担う子どもたちの心に「友情で紡ぐ未来への懸け橋」を築き、将来振り返った時に心の支えとなる原点のひとつとなるよう、今年度のスローガン「一步をつなぎ、未来を築く」の想いのもと、委員会一同、誇りと責任を胸に、年間委員会活動に邁進してまいります。